

北小野地区タウンミーティング議事録(要旨)

○日時 2025/11/4 19:00～20:10頃

○場所 北小野地区センター

○参加者 36人

○説明者 市長、企画政策部長、建設部長、農林部長、市民地域部長

○議事録(要旨)

※個人情報や個人が特定される内容などは省略しています。

市長

皆さん、こんばんは。市長の百瀬でございます。本日はタウンミーティングを開催しましたところ、1日のお疲れのところ、多くの皆様へご参加をいただきまして、ありがとうございます。このミーティングも10月20日から開催をいたしまして、市内全10地区あるのですが今日が6ヶ所目ということで、ちょうど後半戦のスタートになります。ちょうど今朝はおそらく北小野も氷点下の気温となったかと思います。急に寒くなりましたし、一昨日11月1日は土真ん中ウォークを開催いただきまして、地域の皆さん本当に総出でウォーキングのイベントが開催できましてありがとうございました。

そして一つ皆さんご心配されていると思いますけれども、クマが昨日も出ておりますし、辰野町小野地区で出沒の目撃情報が寄せられております。皆さんには大変ご心配おかけしておりますけれども、私どもも緊急メールや放送のほか、県警のライポリスというアプリケーションからもクマの出沒が出ますけれども、情報提供をしっかりとしまして、やはり住民の皆さんの安全を守るということは非常に大事でございますので、クマの対策も進めていきたいと思っております。

※(省略)北小野地区の説明(別添資料)

※(省略)令和8年度予算編成方針について説明(別添資料)

駆け足で現状お話をいたしましたけれども、皆様からご意見を頂戴する前に、区長さん方からご意見をいただいておりますので、それにお答えをしていきたいと思っております。

北小野地区内の宅地造成分譲について、ということでお話をいただいております。一つがこの地区内に未活用地がある場合は、市において宅地造成の分譲をお願いしたいというご要望

がございます。大出区の旧市営住宅上田原団地の跡地があります。そこにつきましては令和8年度、来年度に宅地分譲ができるよう現在手続きを進めております。6区画取れる予定でありまして、市の土地開発公社で分譲等を進めていきたいと考えております。

そしてもう一つ、地区内の空き家や、遊休荒廃農地等の民有地については民間事業者において積極的な宅地造成や分譲が行われるよう、市において誘導を願いたいというお話がございました。民有地の活用については、基本的には所有者の意向が大事になっておりますが、いわゆる未利用地というものを活用していくのは、この地域を育てていく上で非常に大事なものだと思っておりますので、今の空き家バンク制度等を活用しながらそういった未利用地の活用促進をしておりますし、民間事業者とともに連絡会等を持っておりますので、そういったところでご相談をいただければ、しっかりとお受けをしていきたいと考えております。ただ、どうしても需要と供給がありますので、分譲しても帰ってくる人がいないというような、そういう状況も生まれるとは思いますが、宅地の需要というのも結構ありますのでうまくマッチングができるように進めていければと思っております。

北小野地区は都市計画区域外ですので、都市計画法の制約が薄いのですが、農地に関してはやはり開発の手続きをきちんととっていかなければならないので、使いやすい宅地が供給されるような、そういうところは力を入れていきたいと思っております。

そして三つ目に宅地造成分譲について、北小野地区で協力できる事項があれば教えて欲しいというような話がありました。私ども一番は所有者との接触というのが非常に苦労するところがあります。そういう中で、やはり昔から住んでいる所有者の方との接点があるとそこは非常にアプローチがしやすくなります。そういった面は地域の皆さんの力をお借りしながら、土地の流動化が進むような形をとっていききたいと思っております。実は塩尻市も移住定住促進をしているのですが、今塩尻駅周辺が坪20万円くらいになってきており、今家の価格が高いですから家が建たないというお話もよく聞いています。この辺ですと、安曇野市が移住定住で社会転入数が増えているのですが、高いところでも坪12万円とのことで、やはりそういう形でいかに良い環境の中で適正な価格で土地を供給していくというのは非常に大事なのかなと思っております。

区長さん方からのご要望のお話をしましたが、区長の方で補足的な意見がございましたら、お受けしたいと思っておりますがいかがでしょうか。

市民

宮前区に今、若者の定住促進住宅があるのですが、そこに住んでいる方でここに住みたいという希望があるのですが、実際は供給されるものがないので住めないということのが非常に多いというか、ほとんどがそうなんですけども、そういう現状がある。そこを例えば、もう使われてない農地を転用できるような何かシステムができればいいなというふうに感じております。

市長

本当に農地の転用というのは大事であり、いろいろな手続きや許可を取っていく必要があります。例えば補助金が入ってるような農地はなかなか転用が難しいのですが、連担して住宅地化できるというような、土地それぞれによって条件は違うけれども、農地の活用が進むように、しっかりと市もお話をしながら進めていきたいと思っております。北小野ですが定住促進住宅がありますし、お試し住宅もありまして、お試し住宅で試されてからお住まいになる方いらっしゃいますし、あともう一つ、例大祭や御柱祭がありますが、そこに魅力を感じてお住まいになる方も非常にいらっしゃるということは認識をしております。そういう中で、畑の中にポツンとあるとそこまで上下水を引いたり等がちょっと困難な場合もありますけれども、今の住宅と連担していたりとか、続く農地の中とかそういうところは活用の道は結構あると思いますので、しっかりとお話を聞きながら、許可が得られるように私どもも進めてまいりたいと思います。この件は、土地の利用というのはその町の未来を作っていくことに繋がっていきますので、しっかりと連携を深めながら進めていきたいと思っております。

もう何でも結構でございますので、いろいろな意見をお聞かせいただければと思っております。私どもも直球を投げていただいた方が受け取りやすいですので、忌憚ないご意見をいただければと思います。お願いいたします。

市民

そんなに遠くない地区だから、移住定住でもうまくいき始めているという地区だと思うんですけども、私の大先輩とか地区の心配している方から、これだけは聞いておいてくれということがありましたので、ぜひお聞きください。

今ある塩嶺体験学習の家についてになりますが、ボーリング調査やいろいろなことを行うために鉾研工業が職員用に作った建物なのですが、出来てから長年、自然体験の研修、サークル活動といろいろと親しまれた宿泊施設でありました。いろいろな課題もありまして、令和6年度

から指定管理者制度の導入をして、どんなふうになるかということで民間の力を借りながらこの施設を有効活用していこうじゃないかと、そんなことでございました。ところが、実際の利用者数ですけれども、6年度は前年より増加したのですけれども、まだ5年度前の目標に届いていないというようなことを伺っております。それでこのような現状を今どのように捉えているのか、この件に関しては三つぐらいに分けた形で質問しますのでまず、利用者数をどう捉えていて、利用者の傾向についてはどんなものなのかということをお教えください。

市長

利用者数ですが、ご指摘の通りあの頃には戻っていない状況がございます。令和元年に1935人いましたけれども、令和6年度は大体693人ということで、3分の1程度になっている利用者の状況でございます。ただいろいろなイベントで使われてもいますので、季節的なものの大きな影響はあると思っています。

市民

ありがとうございました。なかなか一度コロナみたいなものが起こると、先ほどの予算の関係もそうなんですけれども、前のベースに持っていくっていうのが、何か工夫が必要だと思うんですね。今、利用促進に向けてなんですけれども、市の方で広報とか学校との連携地域とか、どんな取り組みをしているのかをお教えください。

市長

市の方ですと、リーダー研修で使っておりますし、出来る限りは使ってるのです。実のところ、建物も老朽化してきております。特にエアコンがないというところもありまして、そういう中でなかなか市の方も利用促進をしても利用が伸びていかないという状況がございます。市の方も積極的にといいますか、そもそも論なのですが、鉾研工業さんをお持ちになっているところでありまして、私どももなかなか宿泊業を入れるという事業が非常にコロナの後減ってきております。そういったところで市として利用促進を図るのが難しい状況にもなってきております。各学校の児童会長、生徒会長さんを集めてやったりする学校の行事もあるんですけれども、本来であれば宿泊しながらの研修施設であるんですけれども日帰りで終わっていて、そういうところは進んでいないという状況がございます。

市民

ありがとうございました。これは質問というか要望にもなってしまいますのですけれども、北小野地区にはご存知の通り塩嶺カントリーさん、今回正式オープンしたチロルの森さん、地球の宝石箱、もみじ山、しだれ栗森林公園、霧訪山、小野神社、古田晃記念館、JR眼鏡橋など非常に魅力的な観光資源がこの一帯には揃っておりまして、塩尻市の観光行政にも大きく影響するところもあるのですが、これらと体験学習の家を組み合わせ、民間事業者と組みながら、地域を盛り上げるという観点で地域回遊型の活用をして市として支援や連携という形で、体験学習の家を使っていただきたい、そんなことを思う次第です。何か市として支援とか連携の意向みたいな具体的な関与の仕方というものをどのように考えているかお伺いしたいのですが、お願いいたします。

市長

できる限りいろいろな連携をしていきたいとは思っています。ご指摘の通り、周辺には同じ鉾研工業さんがやっている地球の宝石箱がありますし、今年チロルの森も完全な営業を復活されております。あと、もみじ山もありますし、塩嶺王城パークラインとさまざまな地域資源がありますので、結びつきながらやっていきたいんですけれども、どうしても施設的にはどちらかというと宿泊が主の施設でありますので、そういった地点と宿泊を結ぶのは、今はツアーで組むよりも、個人の選択に委ねられるところも非常に多いと思ってます。市の方でそういう資源を繋ぐツアーを組んで誘客をしても、お客さんが来るかということそれは難しく、今旅行はインターネットで調べながら自分でプランを組んでしまっていて、予約ももうネットとかで完結してしまう時代に入ってきてしまっていて、なかなかこちらが考えているお客様の需要をマッチさせるというのが難しい時代に突入していると思います。けれども何もやらないというわけではなく、その施設がうまく賑わうようにはしていきたいと思っております。ただ先ほどから申し上げています通り、鉾研工業さんの意向というのは非常に大きいのかなと思っています。

市民

ありがとうございました。施設の問題が今回の質問の中で大きい問題かなということも思いました。ただそうは言っても、本当に北小野唯一の施設ですので、観光地の真ん中にあるの

で、うまく使えばそれなりの効果のある施設だとは思っているので、また何か観光行政として考えていただいて、一帯を含めて体験の家が盛るような形で取り組んでいただきたいと思います。要望にさせてもらいます。

市長

承知いたしました。核となる施設ということは十分承知をしておりますので、所有者であります鉾研工業さんと、指定管理者でありますひだまりさんと連携をしながらしっかり活性化するように努めていきたいと思えます。次の方、いらっしゃいますでしょうか。

市民

昨日、古町地区でクマが出ました。防災無線で古町区長が一生懸命言ってくれたようですが、家の中にいると、「防災無線が何か言ってる、きっとクマじゃない？」っていううわさはしたのですが、たまたま栗の木が知人の栗の木だったということもあって、そこから情報が来てクマだということになったのですが、火災の場合は危機管理課からメールが入りますよね。クマの場合は耕地林務課からメールを流すような方法であった方がいいのではないかなと思うのですがどうでしょう。

市長

実際、緊急メールでクマの情報を流しておりまして、クリックすると、どこにクマが出ているかという情報が出ております。緊急メールを登録する時に、火災とかいろいろなチェックの項目がメールシステムでありまして、そこを修正してもらおうと流れていくと思えます。実は今日、どうして市のLINEで流さないんだっていうお話をたくさん頂戴しまして、LINEでもご提供するような形で今日話し合いをしましたので、情報提供をきちんとするというのは非常に身を守るうえで大事なことだと思っております。

そしてもう一つが、県警のライポリスというアプリがあるのですが、そこにも出てきます。あとは「けものおと」という、地図を見ながら出没場所が出るようなアプリがありまして、そういったもので積極的に情報提供するようにしていきます。

そしてもう一つ、防災行政無線に関して言いますと、聞きづらい点はこれは北小野地区でなくて全市的に発生する状況ですのでちょっとそこが一つ課題かなと認識しております。

市民

わかりました。ありがとうございます。

市長

昨日は非常にご心配もお掛けいたしました。昨日は麻醉銃を打てる方が来るのを待つ間に逃げてしまっていました。緊急銃猟とかもあるのですけども、なかなかまだああいうところで発砲できるハンターさんがいらっしゃらないとかちょっとそういう状況がありますので、まずはしっかりとクマの出没の情報提供はしていきたいと思います。ありがとうございました。

市民

まず地域防災について、地域防災意識の向上ということで私は阪神淡路大震災ともに経験をしまして、そのとき自衛隊の総監部というところに勤務をしておりましたので、そのときの体験も踏まえまして、自助それから共助、公助とこの三つがあるんですが、特に阪神淡路大震災のときは自助と公助、これが大体8割、あと2割が公助ということで、住民にしてみたら公助は役所が何かしてくれるというふうに思ってるのですが、自助共助を地域に住んでいる人に徹底するという取り組みが不足しているんじゃないかという気がするのです。北小野地区で自助、共助それから公助というのはどうあるべきかということを地域住民に考えていただくような場を設けるだとか、そういう提案をしていただけると、具体的に地域の住民がそういうことに取り組めるんじゃないかなという気がしている。その辺がもうちょっと、今回のしおじり消防防災フェスタが小坂田公園で11月8日に計画をされてますけど、そのちょっと中身を見せていただいたら自助公助についての徹底という点は薄いのではないかなと。そういうコーナーもを設けていただいて、そこへ来た人が、「私はこういうことをしなきゃいけないのだな」ということを体験できればいいのかなと感じております。また、せっかく防災フェスタをやっていただくので、休みの日で混雑するので乗り合いで来てくださいという案内もいただいておりますが、できたら北小野なんかも今問題になっているように、移動する脚がない人もいますので、シャトル便なんかを提供していただけるのであれば、住民も出かけてみようかなという気持ちになるのではなかろうかなと思っております。

私個人の意見です。よろしくご検討をお願いいたします。

市長

貴重なご意見ありがとうございます。まさにおっしゃる通りでございます。自助がないと当然共助に繋がれません。公助というのは、市役所も被災をしますし、市の職員も被災をしますので、一番最後になってしまいます。まずは皆さんが自ら助かることを考えていただかなければならないと思っております。

塩尻市も南海トラフ地震対策推進地域に今年の7月新たに指定をされまして、ますます災害リスクの備えをしていかなければならない状況になっておりますし、各地区で防災訓練を行いますけれど、やはりそういうときも一番大切なものは自助ということを明確にお伝えをしながら進めております。皆さんもまず今日タウンミーティングの後ご自宅へ行っていただいて、本当に万が一災害が起きたときにね、ちゃんと食料があるのかとか、自分はどういうふうに避難すればいいのかとかを考えるきっかけにいただければと思っております。防災力の向上を努めていきたいと思えます。

またこの週末にあります防災フェスタでございますけれども、中心は消防団が担っておりまして、北小野もそうですが、消防団が危機的な状況になっております。団員の確保が難しく、また一度入ってしまうと次の団員が入るまで抜けられないという状況が非常に見えていまして、なかなか消防団に入りづらいという状況も把握はしております。そういった中で、消防団の皆さんの活動も周知していただくイベントではございますが当然、自助のお話はその中でも触れることができますので、自助を考えるイベントにしていきたいと思っております。そして移動手段ございましたけれども、移動手段は大きな課題であります。先ほどの地区カルテの中でもやはり移動手段を心配される方がいらっしゃいます。これらの公共交通としてどのように移動手段を確立していくか、また来年の4月から北小野地区のステップくんのダイヤ改正もありまして、今地域の皆さんのご意見を拾っている状況でございますし、そもそもバス停までたどり着くことがなかなか難しいというような状況もあります。

またもう一つ移動手段で言いますと、子供たちの部活動も今、塩尻中と一緒にやってる部活動もありまして、そういったところの移動手段を考えていかなければならないと思っています。これからのまちづくりで大事なところはやはり、行きたい場所にどこでも行ける、お医者さんにかかったりとか買い物行ったり移動手段の確立されたまちというのは強いまちになっていくと考えておりますので、今塩尻はステップくんとの一とを複合的にやっていますけど、さらにそこに地域の皆さんの移動をサポートする力が加わると、よりよい形になっていくと思えます。

ので、そういった面でも地域の皆さんのお力をいただければと思います。

市民

もう一つだけ、緊急通報というものがあるのですが、これはこれから高齢化世帯になって、1人で独居等になった場合、この緊急通報システムというのはスマートフォンで登録をしておく自動的に110番だとか119番に通報するシステムなんですけど、このシステムの導入については、収入の少ない人は0円なんですけど、収入の多い人は月額1000円で導入できるというふうに伺っておるのですが、これが全体で塩尻市の地域でどの程度導入されているのが現状はどうかというのと、これからの方向性というものがわかりましたら教えてください。

市長

緊急通報に関しましては、一度タクシー会社と連携をして過去に進めた経過がございますが、なかなか事業として育てていかなかったことがあります。また松本市さんが中部電力と組んで緊急通報というか、見守り的に、高齢者の方の電力の使われ方とかを見るといったこともやってましたけども、やっぱり実証のまま終わってしまっており、来年度はもうやらないみたいなそういう方針が示されております。

今さまざまな緊急通報のシステムがありますので、どういう手段がいいのかという結論は持っていないのですが、スマートフォンを使ったり、デジタルが得意でない方もいらっしゃいますので、そういうときにどのように通報ができるか。これから高齢化社会により進展している中では必要な措置だと思いますので、その点を踏まえて、まだ何ができるってことを明確にお伝えできないのですけどしっかりと研究を進めていきたいと思っております。

市民

私は里の守り人たちっていうグループのメンバーです。事前に支所を通して、質問のプリントを送ってあるのですが、農林部長さんをご承知ですか。

農林部長

私も承知しております。

市民

今回質問するのは、霧訪山の東側山麓の地域で古くは小野の牧というふうに使われていたと言われておりますが、畑作地帯です。その利用に関して、一つは高齢化の問題、それからもう一つは後継者が不在になっているということ。これは地権者だが、耕作権と地権は別の方もいるようですね。そういうことから、耕作放棄が目立つようになってますね。

山の生き物たちが耕作地へどんどん出てくるようになってきた。私達の会はプリントを見ていただいてご理解いただければと思うのですが、人数もボランティアでありますから毎回全員が出ていけるわけでもありませんし、できる範囲でやっております。今後どう展開していくか、特に地権者、一番は不在地権者とのコンタクトですね。草を刈ってくれという話なのか、逆に耕作する人にその土地がうまく借地契約のような形で渡れば、全体的な耕作放棄地の雑草の繁茂は、何か手があるのかなと思うんですが、市として何か他の地域もあるかと思えますけど、いかがでしょうか？

市長

ありがとうございます。本当に日頃は様々な活動を通じまして、この名前の通りですね里を守っていただいていることに感謝を申し上げます。霧訪山のあの階段を使っていたり、トイレの設置などご要望を以前いただいたりしたことも承知しています。今様々なお話いただいております、今日せっかく農林部長が来ていますので、農林部長の方からお話差し上げたいと思います。

農林部長

耕作放棄地の対応でございますけれども、現在は主に農業委員さんが土地の所有者に対して直接指導を行ったり、相談に応じたりしております。それからもし上ノ原で農業に取り組みたいという方がいらっしゃった場合には、マッチングなども、農業委員さんとともに農政課に配置しております産地保全支援員も協力しながら支援しております。

市ではその他にも、市のホームページに「貸したい売りたい農地情報」のページもございますので、情報を随時受け付けてお繋ぎするような仕組みでございますので、状況に応じ、ケースに応じてまたご相談いただきたいと考えているところでございます。

市長

今お話ししましたように耕作地の関係でありますけれども、先ほどクマのお話をいただきましたけれども、やっぱりクマが山と餌との境目がわからなくなってきて出てきてしまうということがありまして、特に山際の耕作放棄地というのは、非常に要因になるものと思っておりますので、そういったところをいわゆるマッチングといいますか、誰か耕したい人がいれば探してもらえそうなそういうところは市の方でも調整をしっかりと進めていかなければいけないと思っております。

市民

今お話が出ました農業委員会、そして農業委員っていう方たちが、大出だけかもしれませんがけれど区の役だとかその他の役と同じ名簿にはその欄がないんです。どなたが農業委員なのか、細かくなり過ぎるかもしれませんができたら誰もが承知できるようなことを一步踏み入れていただいて、そして今、農林部長さんが回答されたようにこういう項目は、農業委員会がやる仕事だということを一度大勢の住民にお知らせいただければと思います。

もう一点、先ほども言いましたけど、不在中の人たちとのコンタクトは、やはり農業委員会ができるんでしょうか。そこが最後に残るのかと思うのですが。

農林部長

私の方から回答させていただきたいと思います。不在地主への対応でございますけれども、農地が荒れて困っていると近隣の方々がお困りのようなケースがよくあります。そういった場合には、農業委員会が農地の所有者等を法務局等で調べまして、農業委員が所有者に対して指導する権限というものがございます。まず名前のわかる方でしたら、農業委員さんから直接アプローチをします。それができないということであれば、農業委員会の事務局の方から通知を差し上げるというようなやり取りをしております。こうしたやり取りをしながら、その農地が如何ともし難いというような状況になった場合には、例えば固定資産税が大幅に上がるようなペナルティ的な仕組みも実はございます。現実には、なかなかそういう手段は使いづらいわけで、まだそういったケースはないのですが、通知したにもかかわらず所有者が放置し続け、一向に改善がみられない場合には、農業委員会の権限で直接そういった手段に出る可能性もあるということです。いずれにしても、いろんなケースがございます。不在地主の皆さんの中

には、農地を所有はしているけれども、現在お住まいの自宅から遠くにあり、自分自身も農業ができない状況で、その扱いについてお困りの方も多いわけです。そういったお困りなどにも寄り添いながら解決の方向に向かうように検討させていただきたいということでございます。

市民

もう一つだけ、片丘地区は小規模なワイナリーがたくさんできて、市道山麓線はびっくりするぐらいワインの畑に切り替わりが起こっております。前から古くから言われている農業の6次産業化っていうもののお手本みたいな感じを私自身は受けております。ここでは、それぞれそこまでないんですけど、一軒、辰野町小野にKIRINOKAっていうワイナリーができまして、その原料供給を始めている方が出てきております。その辺も実は農業委員会の仕事の範囲なのかと私は勝手にそう思ってるのですが、もう少し耕作をしない人たちにその話、そういう状況を伝えて、場合によったら、ワイナリーの原料を作る人たちに提供するとか、ぶどうではなくて、畑作を本業にしようとする若い人たちに、その農地の活用をうまく繋いでもらいたいなと私はそう思っております。

市長

まず北小野のいにしえ里葡萄酒さんがありまして、昨年日本ワインコンクールでも金賞を受賞されました。そして今おっしゃったKIRINOKAワインが辰野町にはなるのですが、ございます。そしてまだまだワイナリーを作っていきたいというご期待もございますので、うまく畑の活用とブドウ栽培が遊休農地とかの対処に繋がっていくようなそういう取り組みを市としてもしっかりと続けていきたいと思っております。ブドウの適地がより涼しいところに動いていっていますので、これから北小野がブドウがより取れるところになっていくと感じておりますので、ご意見参考にしながら進めていきたいと思います。

市民

北小野松枯れ樹伐隊です。松枯れ樹伐隊は北小野財産区のメンバーを中心にやってるのですが、昨年から立ち上げまして、北小野の中の区分けとして、勝弦は勝弦里地里山応援隊が勝弦エリアをやる、そのそれとあと北小野の塩嶺別荘については、別荘があったり等で特殊伐採をやらなければいけないということでこちらも手が出ないものですから、塩嶺さんをお願いし

て業者さんをお願いしているということで、その他の地域は北小野松枯れ樹伐隊というところでやっています。去年150本余りだったのですが、今のところ全体で80本ぐらいいは勝弦を合わせて処理をしてきています。

ここからですが、霧訪山の麓に松茸山があるんですが、霧訪山入口まで松枯れが出ているということで、先般県の方の松茸を見る部署と、それと松枯れの担当部署、それと林務課の方をお尋ねして、燻蒸剤が松茸にどういう影響を及ぼすかというのを確認してきたのですが、松枯れの燻蒸剤は殺虫剤ということで、松茸は菌ですから、直接的な影響はないということで伺って、松茸山にあっても処理をしていくという方向性は見えてきています。ただここで2点お願いしたいのですが、1点目は、松枯れが出たところには、必ず来年再来年も出てくるということも含めまして、出た近くにはもう赤っぽい松があるものですから、県の方に言わせるとポンチ検査と言って松脂が出るかどうか、その周辺をまず調べれば大体わかるんじゃないかというようなことを言ってるものですから、そこら辺を市の方でも今後考えていただければ拡大がある程度防げるかなということを思ってます。

あともう一点は、去年も市の補助金を使わせていただいてやってるのですが、予算が不足していていろいろ議会でも問題になっておりますが、北小野地区は守るべき松林ということでやらせていただいているものですから、そこら辺をぜひ滞りないようにしていただければという2点です。よろしくお願いします。

市長

貴重なご意見ありがとうございました。日頃は財産区の松枯れ自伐隊ということで、様々な問題に向き合っていただきまして誠にありがとうございます。松枯れのお話がありましたけれども、やはりどうしても覚知する本数と、被害の対処をする本数は逆転をしております処理が追いついていかない状況になり、守るべき山の色塗りをさせていただいた経過がございます。

先ほど今のポンチ検査のお話いただきましたけれども、やはりどうしても1本出るとその周辺はやっぱり疑わしい木になりますのでそういうところをどうのような対応ができるかというのを考えていきたいと思っています。皆様からもどうせ作業するんだったらもう周辺も切ってしまった方が効率的だというお話は多くの方からいただいておりますので、市の方では既にそういう対応をやってるようですので、また樹伐隊の方でもできるようなことも考えていかなければいけないのかなと思っております。

そしてもう一つ予算でありますが、昨年令和6年度も51億円という額になってきておりまして、どこを上限にするかというのは非常に難しいところでありますし、作業する人たちの手も今足りてきていないような状況もあるかと思えますけれども、どうしても皆さん松本の方行かれますと、いわゆる白骨化した山というのをご覧になっていて、ああいうふうになってしまうんじゃないかってそういう不安があたりかと思えますけれども、そういうようにならないようにできる限りのことは私どももやっていきたいと思っております。

松枯れに対するご対応も非常に大事になってきましたけれども、実は木曽地域の方から松枯れが今回初めて出てしまいました。そういうことで山を取り巻く環境は非常に厳しいと思っています。そもそも山って40年ぐらいで切ってまた再生林をして育てていかなきゃいけないんですけども、市内の山のほとんどが平均年齢70歳ということで、私人間社会以上に山も高齢化しているというふうによく言わせてもらっているのですけれども、山を守る活動ってしばらくやってこなかったのが、今影響として出ているのかなと思っております。今できることをしっかりとやるように体制を整えていきたいと思えます。

ちょっと時間オーバーさせてもらいますけどご了承ください。

市民

先ほど大変ありがたいお話で、6戸の分譲住宅というお話があったのですが、もちろん分譲住宅も欲しいのですが、例えば宮前の33%でしたっけ。

でもこれは促進住宅があって33%です。そうでないと、当然もう50%近くになるという、この状況で、分譲住宅も結構なんですけどそれがベストなのかどうなのか。もう一度考えてみる必要があるんじゃないかなと。6戸作ってみればいいのですがまだ他にもできるようなのか、あるいは今の促進住宅的なものをやった方が効率的なのか。そこに入っている人たちがまた家を探している状況もありながら、なかなかいい物件がないっていう話は先ほども出てましたけども。

それとあわせて、両小野小・中学校の組合立の問題ですが、大変に人数が少なくなってきました。全国で小学校は組合立が6つあるんですが、県をまたいでのその小・中学校が来年度で廃校になる。要するに全国で小学校が5つ、また中学が20いくつあるのですが、そこも一つ減るような状態になっておりますので、今後の小中をどのように考えているつもりなのか、その辺のところをお話いただければと思いますが、2点お願いしました。

市長

ありがとうございます。まず一点目、上野原住宅団地の跡地でございますけれども、今分譲という形で進めております雇用促進住宅のようなアパート的なものを建てるにあたっては、誰が建てるかというところの課題は大きな解決しなければならない問題だと思っております。建設部長の方で今の話し合っているところの経過等のお話を差し上げたいと思っております。

そしてもう一つ、今両小野小中学校のお話がありましたけれども、当然塩尻市と辰野町で自治体が違いますし、教育圏も塩尻は松本に属していて、辰野は伊那に属しているという長野県の中を見ても非常に立ち位置が稀有なケースの組合立であります。

人口の動向を見ながら話を進めていかなければならないと思いますが、数字を見てしまうと、これからの学校運営というのは非常に厳しさが見えてきておりますけれどもそこをどういうふうに運営をしていくか、市の方も当然やっておりますけれども、地域の皆さんのお考えそしてあとは、子供にとって何が一番いいのかというところを考えながら結論を導き出していきたいと思っております。住宅の件は補足を建設部長からします。

建設部長

住宅の関係ですけれども、先ほど冒頭市長の方から話があった通り、土地開発公社の方で6戸の分譲をする予定です。住宅開発ってやはり需給バランスって非常に大事だと思っていて、既存地区でこの6戸の開発をした後に、どのくらいでこの場所が売れていくのかということに非常に関心を持っております。これがやはり開発力があってすぐすぐ売れるような状況であればですね、空き家になっている土地とか、そういったところを活用するに当たっても、非常に魅力的ではないかなというふうに思っておりますので、いずれにしましても、来年売る6戸の住宅に注視して、今後の対応を検討したいというふうに考えておりますのでよろしくお願いいたします。

市民

ありがとうございます。先ほどの組合立のことですけれども、残念なことはね、辰野町と塩尻市の教育委員会同士の連携がうまく取れてない点が多々ある。この辺は十分に踏まえて、こういうことを知ってますかって市教委の方へ聞いたら知らない、辰野町の方へ塩尻市のことを聞いてみても知らないということが山ほどあります。どんな細かいことでも、小学校のことは

もう辰野町に任せた、中学校のことは塩尻市へ方へ任せたみたいな形になってますが、ぜひ組合立だということを踏まえての対応をお願いしたい。

これだけ最後に申し添えて、いろいろご努力いただいていることは重々承知しておりますがよろしくお願いします。

市長

承知いたしました。職員レベルでもしっかりと情報連携するようにいたしますし、私自身も武居町長と連携をまた情報を密にしながら、今ご指摘のように小学校は辰野、中学校は、塩尻だみたいな考え方を持たずに、組合立でせっかくやっていますのでそういったメリットが生かせるよう、連携を密にしていきたいと思っております。

市民

手短に申し上げます。勝弦ため池のポンプの故障のことについて、いろいろと市の方でも予算付けを何かして御努力をいただいておりますが、私が心配するのはやはり来年の7月によやく直るといようなことの中で、田植え時期にその水がないといようなことになると非常に問題となるということでございますし、同じ集落内で水争いが起きるようなこともあっても困ると思いますので、ぜひその一点だけは何とか、ポンプが間に合わなければ、他の方法でといようなことで田植えができるといことを今からぜひお願いをしたいと思います。要望でございますので、よろしくお願いいたします。

市長

ありがとうございました。大事な問題だと思っておりますししかも今その米作りに対する世の見方って非常にあります。今バイパスを使って違う方法で水が行くような方法を検討しております。ポンプはちょっと部品が入らないと物が入らないとか、物理的な要因もありますけどしっかりと水田が維持できるように努めてまいりますので、そこは要望に応えていきたいと思っております。

まだまだいろんなご意見もあろうかと思っておりますけれども、私自身も運動会に参加させていただいたり地域のいろんなところに顔を出させていただきますので、こういったタウンミーティングの機会のみならず、北小野地区で見かけたり、市内で見かけたときに市長、市長って声

かけてもらってその場でご意見いただいても、しっかりと聞いていきたいと思っております。
今日も本当に多くの貴重な意見をいただきました。市としましては北小野地区のこの歴史文化、
そして何といてもこの地域のまとまりというものをすごく感じております。そういう地域の
特性を大切にしながら、北小野地区のためにも全力を尽くしてまいりますそのためには、区民、
住民の皆様の力というのはですね、必要になりますので、引き続き大きな大きなお力を貸して
ください。そういったこともお願いを申し上げまして、今日のタウンミーティング閉じたいと思
います。今日はどうもありがとうございました。